

令和 6 年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

美術科

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1 年	○積極的に活動に取り組んでいる。 ▲技能は身に付いてきているが、学習が習慣化されず、知識が十分に定着していない。 ▲表現の言語活動が定着していない。	・くり返し学習できる課題を用意し、学習習慣を通して知識の定着を図る。	1 年	○絵の具の使い方が定着してきた。 ○作品作りを楽しんで前向きに取り組んでいる。 ▲学習と関係のない私語が多い生徒がいる。 ▲資料の活用が不十分。	・調べ学習を取り入れるなどして、資料集や教科書等を活用する機会をつくる。 ・動画などで実践の様子を見せる。	・進んで取り組んでいる生徒が多い一方で、知識や技術の習得に対して苦手意識を感じている生徒も見られる。単元ごとに演習問題等に取り組ませる。
	2 年	○情報伝達（ピクトグラムや）の視点が身に付いてきている。 ▲鑑賞の言語活動が定着していない。	・ショートステップで時間を区切り、確実に取り組ませる。	2 年	○ゴッホの作品や知的財産権について認識を深めることができた。○パッケージの学習に取り組んだ。 ▲資料の活用が不十分。▲学習に対する積極性に差がある。		・知識や技術の習得が不十分な生徒が見られる。単元ごとに演習問題等に取り組ませる。
	3 年	○自分で課題に取り組んでいる。 ▲活動の見通しがもてず、取組に時間が掛かる生徒がいる。	・言語活動時の参考を提示する。	3 年	○水墨画の学習に取り組むことができた。○調墨の技法や意識が身に付いた。▲資料の活用が不十分。▲学習に対する積極性に差がある。		・知識や技術を活用しきれっていない生徒が見られる。より実践的な経験を積むことが必要。
思考・判断・表現	1 年	○発言が多く、考えを出すことや作品を工夫することに前向きな生徒が多い。 ▲考えを的確に説明することが難しい。	・振り返りを見直す。	1 年	○グラデーションやステンシルなど、繰り返し取り組むことで工夫が見られた。○文字のデザインに対する表現力が高まった。▲学習の深め方がわからない様子が見られる。	・振り返りシートを活発に学習に取り入れる。 ・考える時間を増やし、場の設定を変える。	・言語活動への苦手意識が見られる。アートカードなどを活用しながら自分の考えを表現する機会を設け、思考力を育てていく。
	2 年	○自分の考えを出すことができる。 ▲自分の思いや考えを深めることができていない。	・制作時の言語活動を丁寧に組みさせる。	2 年	○自分なりのアイデアを考え、表現を工夫していた。○友達の作品や美術作品に関心がある。▲美術の視点での学習の振り返りが難しい。▲自分一人で考えることが苦手。		・創意工夫への消極性が見られる。作品の仕上がりへの意欲をもてるように、制作の場を演出するなどして表現力を育てていく。
	3 年	○自分の考えを出すことができる。 ▲自分の思いや考えを深め、広げることができていない。	・参考作品を見せ、工夫のイメージがしやすいようにする。	3 年	○自分の表したいイメージをもち、表現を工夫することができた。▲イメージが広がらず、自分の作品の特徴を捉えられない。▲自分一人で考えることが苦手。		・表現活動への苦手意識が見られる。ワークシートなどを活用しながら自分の考えを表現する機会を設け、表現への思考力を育てていく。
主体的に学習に取り組む態度	1 年	○集中して取り組んでいる。 ▲メリハリを意識する学習規律や学習記録を残す習慣が身に付いていない。	・学習の目的を意識させる。 ・作品掲示や紹介の仕方を工夫する。 ・美術分野への興味関心を高める。	1 年	○友達や教師と対話しながら作品を工夫し、学習を深めている。○自分からスケッチなどに取り組んでいる。▲授業規律や学習習慣の差がある。	・写真や映像などのメディアを提示して、より上を目指して作品を制作したいと思えるようにする。 ・授業の約束事を掲示し、授業規律を徹底する。	・提出物や資料の活用等、学習規律への意識に課題がある。美術を愛好する心情を軸に活動を促すことで主体性を育ませる。
	2 年	○鑑賞の活動に積極的である。 ▲鑑賞の視点が共有できていない。 ▲新たな工夫を取り入れるなど、自分で学習を高めていく意欲が低い。		2 年	○友達との違いを楽しみながら取り組んでいる。▲一人で集中して学習を深めていくことが難しい生徒が多い。授業規律や学習習慣の差がある。		・準備物や提出物等が揃わず、学習規律への意識に差がある。美術を愛好する心情を軸に活動を促すことで主体性を育ませる。
	3 年	○片付けなどの習慣ができている。 ▲指示された範囲でしかやらない。新しい工夫を取り入れるなど、自分で学習を高めていく意欲が低い。		3 年	○友達との違いを楽しみながら取り組んでいる。▲自分自身を美術的に高めようとする生徒が少ない。▲授業規律や学習習慣の差がある。		・準備物や提出物等が揃わず、学習規律への意識に差がある。美術を愛好する心情を軸に活動を促すことで主体性を育ませる。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業	・制作時の中間鑑賞を設ける。 ・鑑賞活動を充実させる。 ・振り返りなどを通して言語活動に取り組む。		・鑑賞活動において、視点をもとに考えを深めていくことが難しい生徒が見られた。日頃の鑑賞や言語活動に取り組んでいく。 ・実技教科の学習習慣が身につけていない。くり返し学習できる課題を配信し、定着を図る。 ・進んで振り返りに取り組む生徒が増えた。目標をもとに振り返る意識を定着させる。 ・美術室の使い方が定着してきた。	・ＩＣＴ機器を活用した鑑賞活動に取り組んだ。中間鑑賞では言語活動のある鑑賞の時間だけでなく、道具や材料を取りに行くときに自然と目に入る鑑賞活動の整備にも取り組んだ。		・振り返りの意識が高まった様子が見られたが、片付けで記入を後回しにする生徒がいる。授業内の流れを意識させるような掲示や声掛けを行う。 ・美術作品への関心が低い。短い鑑賞を多く入れて、関心を高めていきたい。また、現代とのつながりを明確にした美術史にも積極的に触れる。	・自由進度学習に向けて、進捗表と資料を用意して取り組んだが、目的意識に差が大きく出てしまった。机間指導等のフィードバックを丁寧に行い、自分で進めることへの意義を感じられるようにしたい。 ・定期審査を行っていたが、知識を制作等の実践で生かす様子があまり見られなかった。単元テストを取り入れつつ、ワークシートなどの形式を工夫していく。